令和８年度第４回仙台若者会議「せんだいユースカウンシル」　議事録

Ⅰ　会議概要

１　日　　時　　令和８年９月１日（火）15：00　～　17：00

２　会　　場　　スマートイノベーションラボ仙台

３　出席委員　　12 名
浅野圭亮委員、及川綾香委員、大井菜摘委員、奥平悠大委員、加賀春埜委員、齊藤祐輔委員、佐藤晟也委員、清野綾花委員、中田茜吏委員、中野柊一郎委員、前田将宏委員、米山萌香委員

４　議事録署名人　　中田茜吏委員、及川綾香委員

Ⅱ　議　事

１　開　会

〇村上事業推進担当係長

本日はご多用のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから第４回 仙台若者会議「せんだいユースカウンシル」を開会いたします。

本日の司会を担当します、仙台市こども若者局こども若者政策課の村上と申します。よろしくお願いいたします。

開会に先立ち、お知らせとお願いがございます。

本会議は公開で行うこととしております。また、会議録作成のため、本日の会議内容を録音しておりますこと、あらかじめご了承ください。

傍聴される皆さまへのお願いです。会議中の発言や会話、無断での録画・録音等はご遠慮いただき、円滑な会議運営にご協力くださいますようお願いいたします。

本日お配りしております資料は次第のみとなっております。よろしくお願いいたします。

２　アイスブレイク

〇村上事業推進担当係長

本日、アイスブレイクを予定しておりましたが、グループワークの時間を確保するため割愛いたします。

３　会議での到達点等について

〇村上事業推進担当係長

続いて、事務局より本日の会議の到達点や第５回会議についてご説明いたします。

〇長谷部こども若者政策課長
（資料に基づき「会議での到達点等」を説明）

〇齊藤会長
ありがとうございます。次回は市長への報告となりますので、今日で報告の内容の精査、資料作成に向けてしっかりと議論ができればと思います。
それでは、早速グループワークへと入りたいと思いますが、今回の議事録署名人については、A グループが中田委員、B グループが及川委員にお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

〇中田委員、及川委員
はい。

〇齊藤会長
途中で休憩をはさみながら、各リーダーの指示のもとに議論を進めていただければと思います。それでは各グループに分かれて進めていただければと思います、よろしくお願いします。

４　グループワーク

●A グループ「仙台・東北への愛着を背景とした、地域との関わりに関する若者の意識について」

（A グループは、第 4 回会議を迎えるに当たり、これまでの議論でターゲットに設定した「今市内にいる学生」と「今市外にいる社会人」に向けてチームを作り施策を考案した。）

〇齊藤会長
それぞれチームで話し合っていただいた内容の共有から始めましょう。

〇米山委員
では、「今市外にいる社会人」について共有します。こちらに関しては、施策案が先行して出ていたので、新しく何か施策を考えるというよりは、これまで出た 3 つの施策案、①アンバサダー制度、②友人を連れて帰ると割引等を受けられる制度、③デジタル市民、を改めてグループワークシートに落とし込んだという感じです。
まず①アンバサダー制度は、能動的な関わりしろがない、観光資源があるのに PR が不足しているという課題、②友人を連れて帰ると割引等を受けられる制度は、1 回の観光で終わるのではなく 2 回以上の関わりに結びつかないという課題、③デジタル市民は、住む場所としての評価はとても高いが観光地としての評価は低いという課題にそれぞれ対応できるかなと考えました。それぞれの具体的な中身は今日詰められたらいいと思っていますが、①アンバサダー制度については、群馬県で GUNMA PASSPORT という事業を行っていて、かなり人気が

あるようです。申請者が多くて、6万部の増刷が決定していてさらに抽選での配布となるようなんですね。このパスポートで県内の市町村を回遊すると最後県庁で特別なスタンプがもらえるという仕組みのようです。
この取組のみちのく版ができたら面白いよねという話をしていました。みちのく単位ですとツーリングなども人気ですし、スタンプではなく焼き印のようなものをもらえるとかわいいかなと思いました。

〇中野委員
いいですね。御朱印集めも人気がありますしね。

〇齊藤会長
続いて、「今市内にいる学生」のチームお願いします。

〇中田委員
前回の議論で、ボランティアという視点だけではなく何かしら役割や居場所を与えて仙台市に愛着を持ってもらう必要があるということが話として出たと思います。
加えて、仙台市の若者施策などで、既に若者が主体で取り組む活動があるにもかかわらずあまり若者に浸透していないのではないかという話にも及びまして、そうした情報を集約して発信すること、この双方を１つにまとめる案を考えてきました。
モデルにしたのが、新潟で実施している「にいがた鮭プロジェクト」という事業で、若者に新潟の情報を発信してふるさとの魅力を伝え、若者とゆるやかにつながり、交流・体験・挑戦する場を提供する、若者に選ばれる新潟を目指して環境を整備することを理念にしていて、まさに新潟の関係人口の創出を目指しているプロジェクトだなと感じています。私たちとしても、仙台市と関わりを持ってもらった若者に、関わり続けてもらうために、若者が主体となって仙台市や若者自身が行っている取組を発信し、かつ、若者が活動するプラットフォームを提案したいと思っています。
ターゲットにしたいと思っているのが、進学や就職を機に転入してくる学生や社会人でして、その中でも、役割や責任を持って積極的に活動したいコアな層となんとなく社会の役に立ちたい、ボランティアをしてみたいと考えているライトな層の２つに分解できるかなと思いました。方向性として、若者が主体となって情報を発信するということ、信頼性の高い仙台市からの情報ということ、役割と居場所をしっかり作るということ、市役所の部署から若者の意見を参考とすることを目的とした意見の集約や活動の依頼などの一定の責任を伴う役割も与えられること、コア層に関しては鮭プロジェクト仙台市版の主体となっていただく、などを考えていました。また、学生を卒業した後も、アンバサダーとして活動できる場所を与えてあげるといいのかなと思っています。
最初は、今実施している施策の発信するプラットフォームから始めて、ライト層とのマッチングなどを実現させ、最終的には今の施策だけでは不足していると思う部分を若者が主体と

なって考えて作っていけるものにできればいいなと思います。以上が、チームで議論を整理した内容です。鮭が回遊しながら戻ってくることから鮭プロジェクトという名称になったそうなので、仙台市版の名前も考えたいねというところまで話をしたところです。

〇齊藤会長
ありがとうございます。今日は、メインの施策をどれにするかタイトルも含めて決める、その施策に対応してグループワークシートの６項目プラスアルファこれまで調べた情報をまとめる、この辺りをゴールにして発表していただいたチームに分かれて作業してみましょうか。ここまで順調にできたら、今市外にいる社会人、今市内にいる学生それぞれで考えているプロジェクトが循環できるように橋が架かるようなことまで提案できると美しいと思いますので、そこを目指していきたいなと思います。

〇中田委員
グループワークシートの①テーマ理解と②現状の課題と原因等は、学生も社会人も共通だと思うので、そこだけ共通認識を持って、チームに分かれるのはどうでしょうか。

〇齊藤会長
そうですね。①テーマ理解と②現状の課題と原因等を一旦全体で議論しましょうか。

〇中田委員
①テーマ理解の目的や理想の姿は、市側から提供された資料を参考にした方が良いですよね。

〇齊藤会長
目的や理想の姿としては、多様な形で関わり続ける「関係人口」として、つながりを維持・発展させたいということと、現地人との交流を通じて、地域のファン化や居場所づくり・帰属意識の醸成をしたい、ということでよろしいでしょうかね。

〇A グループ全員
（承知）

〇中田委員
②現状の課題と原因等は、学生だと就職を機に仙台との関わりが途切れるなどかと思うので、実は社会人向けと学生で違いますかね。

〇齊藤会長
作成するスライドを想像すると、ここまでまとめて見せるのが良い気がしていて、社会人、学生のそれぞれの課題をここで挙げておいて、それぞれの施策に入った方が良いかと思いま

すので、併せて話しておきましょうか。

〇中野委員
継続した来訪とかになるんでしょうかね。

〇前田委員
初回の来訪きっかけやまた来たいと思えるきっかけや役割が少ないこととかですかね。

〇中田委員
その辺りは、④の解決に向けフォーカスする課題に当たりますかね。
②現状の課題と原因等の中から深掘りしたいのが④解決に向けフォーカスする課題として設定する理解でいいんでしょうか。

〇前田委員
その理解でいいと思います。

〇中野委員
先ほどのパスポート施策なら、来訪のきっかけとなる施策ですし、アンバサダーやコミュニティの形成なら継続した来訪のきっかけとなる施策ということですよね。

〇中田委員
となると、学生の課題としては、就職を機に仙台との関わりが途切れる以外に何かありますかね。

〇中野委員
情報が届いていないという課題もありますよね。

〇中田委員
仙台市の既存の若者施策が若者に届いていない、ということですよね。
活動を始めたくても、何から始めたらいいか分からないというのもあると思います。

〇中野委員
これまでの議論でも出ていた役割の観点は入れたいですね。

〇中田委員
ボランティアだと、1回参加して終わりというのがありますよね。

〇中野委員
そうすると、継続して関わるという部分で社会人も学生も役割という共通の課題はありますね。

〇齊藤会長
この共通の課題を挙げられたら、それぞれの施策を接続させる、先ほどの橋が架かるような施策を提案する意味になりますよね。

〇中野委員
一度来訪しても継続した来訪がない原因は出ていましたか。

〇齊藤会長
これまでの議論では、仙台ならではのものがない、再訪には人が重要であること、資源が不足している、観光資源の PR・回遊性がない、などが出てましたかね。
資源の不足、回遊性という観点で見ると、パスポート施策で解決できたりするのかなという気もしますね。

〇前田委員
できそうですよね。訪問してみようと思える距離感ですしね。

〇中田委員
③の市の施策評価についてはいかがですか。

〇中野委員
市の施策自体がさまざまあるので、評価の仕方をどうするかですよね。

〇中田委員
全体に共通しているものとしてさまざま実施しているけど若者に届いていないのではないかという点がありますよね。おてつたびも担当課から情報提供いただいたから知れましたし、それこそこの仙台若者会議や他にも仙台若者未来フォーラム、ユーチャレ（ユースチャレンジ！コラボプロジェクト）のような事業も、せっかく実施しているのに全部情報提供方法がバラバラでもったいないなと感じていますね。

〇齊藤会長
そうですね、全体像としての評価と、市で実施中の施策に対して、例えば今出ている施策案と類似の施策があれば、できていることとできていないことを整理して、こういう取組が必要だと報告できるのが一番美しいですよね。報告する施策案が全く新しいものだとそこまで

は不要な気もしますけどね。例えばパスポートの施策案だと、観光事業として外部の人を呼ぶ施策が既存であれば、ここには誘致できてるけど、奥の方まで回ることはできてない、というところまで評価できるといいのだと思うんですが、報告までに残された時間を見ながらですかね。類似する施策を調べて、それに対して評価していく方法でもいいかもしれないですね。

〇中野委員
今出ている施策案と類似する施策はありますか。

〇東北連携推進課
回遊を目的としたパスポートの事業は、市としては実施していないですね。
また若者向け事業の情報発信のところは仰るように事業ごとで散らばっている感じはありますよね。前回 CROSS SENDAI などもご紹介させていただきましたが、あちらはまた別の切り口なので。

〇齊藤会長
そうすると、若者施策をこれだけさまざま実施しているけど、情報をまとめて発信する仕組みがない、という評価になるかもしれないですね。

〇奥平委員
そういえば、小学校のときに AZ９パスポートというものが配られましたね。
仙南地域で配布されているようですが、施設利用を割引価格や無料で利用できるというものでした。

〇中田委員
仙台市ではどこでもパスポートというものが配られました。

〇齊藤会長
観光や回遊性を目的にしたというよりは、施設を利用する際に使えるパスポートというものなんですね。

〇中田委員
GUNMA PASSPORT とは少し位置づけが違いますよね。

〇奥平委員
そうですね、自転車とパスポートがあればどこにでも行けたので、多くの施設を回りました。

〇齊藤会長
そのような使われ方なら GUNMA PASSPORT と少し類似するところはありそうですね。このパスポートとの違いを出しながら、今回のパスポート事業を報告できればいいかもしれないですね。

〇東北連携推進課
パスポートの事例として、高知県で実施している龍馬パスポートという事業があります。こちらは観光系のパスポート事業でして、宿泊や体験でスタンプがもらえるのですが、そもそも指定施設の利用をしないと発行してもらえない仕組みになっています。スタンプの個数や宿泊数に応じてパスポートのランクが上がり、ランクに応じて特典も得られるという内容になっています。今議論されているパスポートに近いイメージかなと思います。

〇奥平委員
殿堂入りとかもあるんですね。

〇前田委員
面白いですね。僕も収集癖があるので、参加したいです。

〇中田委員
私は収集より経験にお金を使いたい派ではあるのですが、経験をしながら集められるならどちらにしても嬉しい事業ですね。

〇奥平委員
参考になる事業ですね。

〇中田委員
これまでの議論で出た役割の部分を足せればいいですね。

〇齊藤会長
そうですね、この事業の中に盛り込むか、アペンディックスとして別のプロジェクトとして報告するかはあると思いますが、段階的にも示せるといいですね。
例えば、スタンプの条件となる行き先や体験を決めるのを、学生の役割にするとか。

〇中田委員
この行き先や体験をチームいくらちゃん（にいがた鮭プロジェクトの学生運営メンバー）の仙台版の人たちが担うのはいいと思います。

〇前田委員
この龍馬パスポートは１回の訪問で、殿堂入りまで目指せちゃうかもしれないですね。

〇齊藤会長
１回の訪問では、できない仕組みは欲しいですよね。もう１回来る仕組みのような。

〇中田委員
その仕組みがあれば関係人口を創る事業になりますよね。

〇米山委員
ランクが上がるとカタログギフトももらえるんですね。

〇奥平委員
ゴールドパスポートまでランクが上がると、プレゼントと宿泊券 20,000 円ももらえるみたいですね。

〇中野委員
ふるさと納税みたいですよね。

〇齊藤会長
社会人向けのパスポート事業についてはかなり整理できましたね。このまま学生向けの事業についてもみんなで話していきましょうか。

〇奥平委員
鮭プロジェクトの仙台版として名称考えたいですよね。

〇中田委員
先ほども出た鮭プロジェクトのチームいくらちゃんという名前がとてもかわいいなと思っていて、鮭のように循環するもので仙台版の名称が考えられたらいいなと思います。

〇奥平委員
循環と言えるか疑問はあるんですが、仙台らしさも出したいので杜の都というのもあって杜のタネプロジェクトという名前はいかがでしょうか。タネには、情報を知るきっかけになるタネ、解決すべき地域の方のお悩みのタネ、人と人がつながってどんどん育っていくという、つながりを作っていくタネの３つの意味を持たせました。杜のタネプロジェクト、モリタネと愛称でも呼びやすい名前かと思いました。先ほどのチームいくらちゃんは、モリっことかタネっことかそういう呼び名がいいかなとも思います。

〇齊藤会長
面白いですね。杜はいいですね。

〇奥平委員
杜という文字だけでも仙台をイメージできますよね。

〇中野委員
（鮭プロジェクトのチームいくらちゃんのホームページを見ながら）メンバーには他県出身の方もいるんですね。

〇中田委員
それもいいですよね。他県から来て仙台市のための活動をするという。

〇奥平委員
鮭プロジェクトではメンバーになると片道乗車券とかももらえるんですね。

〇米山委員
メンバー特典として他にも、県外で頑張る学生を応援する「ふるさと応援便」、先輩社会人との交流会「にいがた cafe」への参加などもあるようですね。

〇齊藤会長
今出てる施策案としての内容を詰めるとしたら何かありますか。スライドに起こせるレベルでしょうか。

〇中田委員
皆さんの意見をいろいろ聞きたいですね。

〇齊藤会長
先ほどの社会人側のパスポート事業との接続を、この中に入れるかアペンディックスで示すかというところはありますかね。

〇中田委員
このプロジェクトの中に入れたいですね。タネっこがパスポート事業の行き先・体験を選定します、のような形で見せられれば。

〇齊藤会長
タネっこたちの役割として、既存の市の若者施策に関しての情報を発信する、仙台ないし宮

城にある資源をそれぞれ集めてきて広報活動する、といったところですかね。後者に関してはパスポート事業と関連させるという。

〇中田委員
仙台市が実施していることだけではなく、市内にいる若者の取組も発信できたらいいですね。若者がもつインスタ（Instagram）のフォロワーが足りない悩みを、仙台市の後ろ盾で情報発信することで応援できないかなという側面もありまして。私の通う大学だとインフルエンサーが多いんですよね。

〇齊藤会長
行政サイドから活動を依頼する機能も考えてましたよね。

〇中田委員
もう少し具体化した方がいいですよね。具体的な仙台市の施策を提示して評価や活動をしてもらうのか。

〇中野委員
それこそこの仙台若者会議「せんだいユースカウンシル」でのテーマを決める際に提示いただいたような仕組みですよね。その提示した施策について意見を聴きたい、ということにするとか。

〇齊藤会長
それが意見や提案だけではなく、実装して活動するような仕組みになってるといいですね。

〇米山委員
I ターンイベントなども、こうしたメンバーの方に運営してもらえるといいですよね。

〇中田委員
情報発信や居場所づくり、責任のある役割などいろいろやりたいことをモリタネに凝縮した感じですね。モリタネと接続すると考えると、社会人向けの政宗パスポートという名称は短絡的すぎますかね。政宗パスポートの方が、市外から来る人に興味を持ってもらいやすい気はしますが。

〇中野委員
歴史が好きな方とかは興味を持つでしょうね。

〇米山委員
群馬がパスポートという名称で事業をしているのは、群馬に行くにはパスポートが必要なんでしょ、といったイメージに対して少し自虐的な意味も込めてる気がしてまして、東北に関しては違う名称にシフトしてもいいのかなと思ってました。なので、焼き印とかいいかと思ったのですが、スタンプよりも工数はかかるなと思ったりしてました。御朱印系にしてもいいかもしれないですね。

〇中田委員
ふるさと住民登録制度が始まるじゃないですか。それと紐づけられたらいいですよね。
パスポートへの別途の登録の手間があるのであれば、紐づけられた方が便利ですよね。

〇米山委員
登録を条件に発行するとか。やりすぎでしょうか。

〇中田委員
宮城県はふるさと住民登録制度について、JR 東日本（東日本旅客鉄道株式会社東北本部）と連携して、国のモデル事業に採択されているようですね。ご当地 Suica をプラットフォームとして関係人口の創出を推進するようです。

〇齊藤会長
（総務省ホームページに掲載されている宮城県の取組方針に「担い手活動」や「ボランティア」にふるさと住民登録制度を活用する例が記載されていることを受け）この宮城県のモデル事業と我々が報告しようとしているプラットフォームとの違いを整理しないといけないですね。

〇中田委員
若者が主体で運営することですかね、情報発信も若者が行いますし。それから、自治体だけではなく一般の活動も掲載するところも違いますかね。

〇齊藤会長
たしかに若者が運営している部分は大きく違いますね。
この県の枠組みの中で、タネっこになるメンバーが何かできたりしますかね。コンテンツを充実させるとか。

〇中野委員
我々の施策を別の単独の施策とするとぶつかりそうですよね。

〇中田委員
宮城県は県内出身で県外に在住する人という記載があるので、ターゲットを絞ってますよね。ターゲットも違いますよね。

〇齊藤会長
たしかに、ここにも違いがありそうですね。

〇前田委員
転出した人を関係人口にしたい県と、転出前の学生を醸成して転出させないもしくは仙台での関心を保持させるというところで我々と違いますね。

〇奥平委員
転出してしまった人への取組ですもんね、県は。

〇中野委員
県の取組方針で、県外にいる人を県内に入れるために、県内の人と交流を持たせたいということがあるのでしょうかね。だとすると、我々は市内で学生たちを担い手として確保することになるので、交流先として県とのコラボの方が相性が良い気はしますが、いかがですか。

〇東北連携推進課
県の単独事業と市の単独事業を連携させるとなると、クリアしなければならない現実的な課題が出てくるのが正直なところですね。

〇中野委員
外にいる社会人と中にいる大学生を、僕らの施策だけでセットした方がいいということですよね。

〇齊藤会長
ある程度、今情報が出てきた中で、報告のスライドを１回起こしてみないと足りていないところが分からないかなと思いますし、オンライン上で、皆さんで作業できるように、トーンマナーを決める上でも、プロトタイプを作成してもいいかなと思うのですが。

〇奥平委員
構成としてはどうなりますか。

〇齊藤会長
グループワークシートに沿って、表紙のタイトルの後に、①テーマ理解、②現状の課題と原

因等を共通で共有した上で、③現在の市の施策評価から、市外にいる社会人向けと市内にいる学生向けに分岐していく形ですかね。施策を１つずつに絞ることで、これまで議論された内容がいい意味で漏れてしまうこともあるかと思うので、最後に付録としてそうした情報や施策も盛り込めたらいい気がします。

〇A グループ全員
（承知）

〇米山委員
スライドの作成はどのようにしましょう。

〇前田委員
これまでの情報や議論の内容、写真などを AI に読み込ませてたたき台を作成できます。

〇齊藤会長
では一旦作成してみましょうか。

〇中野委員
その間に、発表者を決めましょうか。

〇齊藤会長
そうですね、発表者は何人かいるのが良さそうですが、全員で喋ることを優先しすぎて報告内容が途切れてしまうのは望ましくないように思います。

〇中野委員
最初の共通のテーマ理解や現状と課題などで１人、社会人向け、学生向けの施策説明員でそれぞれ１人ずつ、のような形がいいですかね。

〇中田委員
先ほど決めた構成ですが、③市の施策評価まで一気に共通で説明してから、学生向けにはこの課題にフォーカスして、こういった施策を打ちます、社会人向けにはこの課題にフォーカスして、こういった施策を打ちます、そして接続部分はここですというまとめにした方が良さそうです。

〇中野委員
施策の説明の順番も学生、社会人の順の方が良いですね。
市長にはどういった報告がいいんですかね。

〇中田委員
理屈で説明するよりも、私たちはこれがしたいです想いを伝えるような報告の方が良いと思います。発表者を決める話に戻りましょうか。

〇中野委員
テーマ理解と現状と課題などの前提条件担当、学生向け施策担当、社会人向け施策担当、最後にまとめ担当の４人だと綺麗ですかね。

〇奥平委員
学生向け施策担当は、中田委員いかがですか。

〇中田委員
（承知）

〇奥平委員
社会人向け施策担当は、社会人の委員の方が適任かと思いますがどうでしょうか。

〇前田委員
米山委員いかがですか。

〇米山委員
（承知）

〇齊藤会長
あとは前提条件担当とまとめ担当ですかね。

〇奥平委員
では、僕が前提条件を担当します。

〇中野委員
では、僕がまとめ担当で。

〇齊藤会長
それでは、前田委員にスライドのたたき台を作成いただいて、各担当で確認しましょう。アペンディックスの部分は僕の方で確認します。

〇中野委員
報告前にどこかのタイミングで、通しで確認したいですよね。
（以降、日程調整）

〇米山委員
社会人向けのパスポート事業の名称は政宗パスポートでいいですか。

〇齊藤会長
決めないといけないですね。

〇中田委員
仙台らしさで行くと、すずめ踊りとか。

〇中野委員
七夕、短冊、織姫と彦星、とか。

〇中田委員
織姫と彦星は１年に１回必ず会うという意味では、良さそうですね。

〇齊藤会長
ストーリー的にもいいですね。

〇米山委員
仙台だけでいいのか、東北まで広げた方がいいんでしょうか。そうすると、みちのくというワードが分かりやすい気がします。

〇東北連携推進課
我々としては、正直東北を対象にしたいですが、最初から東北を対象にするのはハードルが高いので、次年度事業として現実的に検討するためには仙台市を対象に始められるといいのかという気がしますが、委員の皆様のお考えとして最適なエリアで報告いただいていいと思います。

〇中田委員
今回のパスポート事業は、仙台市の若者が主体になって場所や体験の選定することを考えると仙台市でいいと思います。

〇齊藤会長
タネっこも情報を集めやすいですよね。
仙台市にしておいて、今後東北に拡大出来たらいいよねという形にしておきますか。
とすると、パスポートの名前は仙台らしさに振っていいですね。

〇奥平委員
僕は仙台や宮城の方言が好きなので、だっちゃパスとか。

〇齊藤会長
なるほど、その観点から考えるのもいいですね。

〇中田委員
それなら表紙のデザインは仙台弁こけしがいいです。
名称はいぎなりパスポートとか。

〇奥平委員
いぎなりパスポートいいですね、皆さんどうですか。

〇A グループ全員
（承知）

〇奥平委員
それでは、いぎなり仙台パスポートと杜のタネプロジェクトの 2 つですね。

（A グループ：グループワーク終了）

●B グループ「町内会をはじめとする地域コミュニティのあり方について」
（欠席の河村委員からは事前にこれまでの議論を通じて、テーマについての意見等を共有いただいた。）

〇大井副会長
次回、第 5 回会議が発表の場となりますので資料準備の担当や発表者を決めていこうと思います。発表者に関しては、１人というのも大変かと思うので、学生、社会人それぞれ 1 人ずつがいいかと思ってましたが、いかがですか。

〇B グループ全員
（承知）

〇大井副会長
以前に、佐藤委員の振り分けていただいた案でいきますと、加賀委員と及川委員となってますが、ちょうど学生、社会人ということでいかがでしょうか。

〇及川委員、加賀委員
（承知）

〇大井副会長
ありがとうございます。では、議論に入りたいと思います。
佐藤委員にまとめていただいた議論のガイドラインを見ながら振り返りたいのですが、このテーマでは、まず①さまざまな世代の住民や転居者が地域の活動と、②若い世代が地域活動に参加している状態という２つの理想の姿があって、①でいうと、本当に知りたい情報とその効果的な届け方という議論の中で、そもそも自分がどの町内会に属しているか分からないからどんな情報を得ればいいかも分からない、ということが大きな問題なのではないか、ということが前回出たかなと思います。これは、河村委員からのご意見の中でも、最初の入りの部分でこの情報は必要だといただいているところです。
加えて、今実施している情報発信では、まだまだ若者や転入者には届いていないという課題に対して、その解決策を宿題で考えてきていただいているので、後ほど確認できればなと思っています。
続いて、②でいうと、活動内容などを伝えた上で、加入後の負担が大きいのではないか、どのくらいの頻度で参加するものか分からない状態がハードルになっていて、情報が届いていない①にもつながるところなんですが、様子を見るという意味でもスポット参加などで、まず負担感等を知るということもいいよねというのが１つ出ました。
一方で、地域で活動している団体や学生とマッチングすることで、若い世代も活動していれば参加しやすい雰囲気も作れるのでは、という話もあって、マッチングについては、既に仙台市の施策としてもあるようなので、そういったものもうまく活用していけるといいですねという話が、ストーリーのメインになっていた部分かと思います。

〇佐藤委員
仙台市として我々若者の意見を、町内会に対する支援に活かしたいという観点と、仙台市が気付けてない課題感やそれに対しての打ち手があるかという観点で、これまで議論に出た施策案も含めてまとめてきました。実際に仙台市の方々がどう施策に落とし込めばいいのかというところまで明確化できたらいいなと思ってます。

〇大井副会長
担い手不足・負担感や町内会そのものの再設計など、これまでの議論に出たフォーカスする

課題の更に根底にある課題も挙げていただいていて、それに向けた施策案もまとめていただいてます。時間をかけてでもこの課題にフォーカスしないと根本的な解決にはならないということはこれまでも議論に出てますし、私たちもそう考えているということはしっかり伝えた方が良いと思いますが、メインで報告する施策というより、付録的な報告にしてもいいかもしれないですね。

〇佐藤委員
時間軸が長そうですもんね。同意です。

〇大井副会長
前回決めたフォーカスする課題の①情報が若者の求める方法で発信されていない、②ハードルの低い入口がない、に絞ってみていくと、①の施策案として、「地域活動ポータル+LINE」（地域活動情報を「今日参加できること」で検索できる形に再設計。市公式LINEから年齢・居住地・興味分野に応じて配信する。）、「転入ウェルカム地域ガイド」（転入時に「町内会に入りませんか」ではなく「この地域でできること」を紹介。町内会、子育て、防災、イベント、地域店舗を 1 枚＋二次元コードで案内する。）、「地域活動 1 分動画・若者アンバサダー」（町内会の説明ではなく「祭りの裏側」「防災訓練」「子どもイベント」等を 1 分動画化。若者自身が撮影・出演・編集する。）が挙がっています。ここは、前回までも施策案の数としてはあまり出ていなかったんですよね。
若者が求める情報ってそもそも何だろうというと、先ほども出ましたが、どこの町内会の情報を見ればいいのか、というところですよね。

〇佐藤委員
そうですね、僕らが議論してきたどこの町内会なのか、の解決と発信の方法として前回出ていたスーパーや地下鉄などの接触場所の具体的な話をしていく形でしょうか。

〇大井副会長
今出ている３つの案全て、どこの町内会なのかという基本的な情報とその先の地域でできること、若者目線での魅力の発信のどちらかだけではなくどちらも発信できる形かなと思います。
ただ、この３つの案以外でも、オフラインのリアルな発信も取っ掛かりとしてはあるという議論もありましたよね。普段の生活で利用するスーパーや駅などそういったところを活用してもいいのではないかという話もありました。

〇及川委員
SNS などのツールに誘導するためには二次元コードとかオフラインの発信をしないとなかなか活用されないのではないかということですよね。

〇佐藤委員
「地域活動ポータル+LINE」は、今あるプラットフォームを使って発信する内容や、プラスアルファでその日活動できる内容を若者がリサーチできるという打ち手で、「転入ウェルカム地域ガイド」は、不動産会社さんとか管理会社さんとの連携を強めて、今作成されているチラシを、例えばマンションに必ず掲示してくださいなどのお願いをするとか、アプローチを少し強くしていくというもの、「地域活動 1 分動画・若者アンバサダー」は、新しい取組になるかなと思うんですが、地域のアンバサダーのような方を公募で募集して、その方々に動画作成いただき、発信をしてもらうといった感じかなと思います。
学生の皆さんとして、どうですかね。アンバサダーをやりたいと思うか、アパートやマンションに掲示されているものを見るかどうかなど。その辺りについてご意見いただけると嬉しいなと思いますが、いかがでしょうか。

〇清野委員
ポスターをふと目に入るところ、例えばバス停ですとかスーパーのトイレの前などに貼るのは賛成ですし、そこからホームページなどに飛んで情報を得られるのもとてもいいですね。正直、関心の高いものではないので、LINE やポスターのように自分から動かなくても目に入るものがいいなと思いました。アンバサダーについては、自分がやりたいかは別としても、動画自体は見てしまうので、いいなと思います。

〇佐藤委員
受身で得られるものということですね。浅野委員、どうですか。

〇浅野委員
実際にポスター掲示されてても、横目で流すくらいかなと思ってしまっていて、本当に受身な状態だと考えると、なかなかここのハードルも高いなと感じていたところでした。

〇佐藤委員
ありがとうございます。加賀委員、どうですか。

〇加賀委員
大学生目線プラス即効性というところで考えると、「地域活動ポータル+LINE」、「転入ウェルカム地域ガイド」、「地域活動 1 分動画・若者アンバサダー」の順で効果があるのではないかと思っています。地域ポータルや LINE を活用すれば、全体に対して発信するので転入者だけではなく住民の皆さんにアプローチできる点と、先ほど仰っていたように受身な状態でも情報が入ってくる点で即効性も高いかと思います。ただ、これまでと比べて変わったところがないという感じはします。

「転入ウェルカム地域ガイド」に関しては、アプローチを強くできれば効果はあると思いますが、転入者に限定されるところが気になります。
「地域活動1分動画・若者アンバサダー」に関しては、自分がTikTokやインスタを見ておすすめ動画として自動で流れてきたらもちろん見ますが、おすすめされるにも、ある程度の知名度は大事だと思うので、そこまでの獲得の過程が長い気がするのと、興味をもって見るかなという疑問があります。ターゲットを絞るのも難しいですよね。地域限定で配信とかはできないと思うので、楽しそうな取組だと思うのですが、即効性はないかなと思います。

〇佐藤委員
参考になります、ありがとうございます。
①の課題で何をクリアするかですよね。情報が若者の求める方法で発信されていないという課題に対して、発信することで行動してもらうのか、まずは興味を持ってもらうのか。

〇大井副会長
そうですよね。全く興味がない、知らない人もいるんですよね。本当にゼロベースの人たちに知ってもらうことを狙うか、活動に一歩踏み出してもらいたいところを狙うか、それによって発信の範囲や内容のレベル感が違ってきますよね。

〇加賀委員
知ってもらうことができれば、②のハードルが低い入口がない課題に対する施策を利用して活動に参加してもらえると思うので、まずは知ってもらうところじゃないかなと思いますね。

〇佐藤委員
河村委員からも、ターゲットが明確じゃないというご意見がありましたが、ターゲットを絞らずに網羅していく打ち手を提案するか、ある程度絞った方がいいのか、いかがですか。

〇及川委員
なかなか絞りきれなそうですね。

〇大井副会長
ターゲットを考えたときに、属性の他にも町内会に興味ない層と、参加するきっかけが欲しいぐらいの層という意識の差の分類もありますよね。

〇佐藤委員
今出ているターゲット属性としては、転入者、大学生と20代の社会人の若者くらいでしょうか。ターゲットを絞らないと複数の打ち手を報告することになると思うのですが、薄い裏付けや浅い根拠にならないか懸念があります。時間がないということもあるので、ターゲット

を絞って、そこに特化して考えた方がいいのかなという気もします。
例えば、学生は卒業後に仙台に残る人が少ないという話も聞くので、学生に対してのアプローチにするのも打ち手を明確にできるのかなと感じました。

〇及川委員
「知ってもらう」ことは若ければ若い方がいいと思います。早い段階で知った方が、年齢が上がっていくごとに参加するフェーズに入ると思います。子育て世代までいくと、自分から情報をキャッチしにいくと思うので、①で知ってもらう対象は学生でもいいかなと思います。ただ学生というよりは、アンダー25 くらいのイメージです。

〇佐藤委員
分けて考えた方がうまくまとまりそうな感じはしますね。

〇大井副会長
及川委員が仰ったように、年齢が上がっていくと、どんどん地域との接点が増えて、ハードルが低い入口がないという課題が重要になる気がしますね。しっかり流れで考えた上で報告できるといいですよね。

〇及川委員
そう思います。知ってもらうという課題は若い層に向けて、次の参加のためのハードルの課題は少し上の世代向けでもいいのかもしれないです。大学生のうちは知ってもらう時間と捉えて、年齢を重ねて参加の方に動いてもらうような。

〇佐藤委員
まとまってきましたね。①情報が若者の求める方法で発信されていないことのターゲットは 18 歳～25 歳、②ハードルの低い入口がないことのターゲットは 26 歳以上という形で考えましょう。
ターゲットの世代に、知ってもらいながら時間に余裕できたら参加してみたいと思ってもらえることも大事ですよね。

〇大井副会長
今まで若者が知りたい情報で考えてましたが、知りたい情報より、知ってほしい情報ということで考えた方がいいでしょうか。

〇及川委員
一方的にならないように、若者が知りたい情報を織り交ぜつつじゃないと見てもらえなくなってしまいますよね。

〇佐藤委員
打ち手の実現性を見極める評価軸として、ターゲットともう1つ必要だと感じてまして、それが先ほど話題に出た即効性とかの時間軸は良い視点だなと思いますね。短期、中長期的に効果が期待できるものが分かった方が行政側でも動きやすそうです。

〇加賀委員
先ほど「地域活動 1 分動画・若者アンバサダー」について、即効性がないとはお伝えしたのですが、まずは「知ってもらう」ということに限定するのであれば、長期的な効果としてはいいと思いました。

〇及川委員
インフルエンサー側にも何かしらメリットを用意すれば応募はありそうですよね。

〇佐藤委員
今、仙台でも街中で若者に「仙台で遊び行くならどこですか」などインタビューをしているインフルエンサーさんがいますよね。例えばそういった方たちに活動費を少し支払って、地域アンバサダーとして公募して。実現はできそうですよね。

〇及川委員
活動費だけじゃなく公的なイベントの MC を任せるなどでも嬉しいかもしれないですよね。

〇大井副会長
すぐできるけど効果が出るのは、即効ではなく中期位のイメージですよね。
一度、これまでの施策案を課題の①、②別、さらに効果観点で短期、中長期に分類しましょうか。

〇佐藤委員
今回の効果を整理すると、課題の①では「知ってもらえる」ということ、②では参加してもらえるということですね。
（以降、分類作業）

〇浅野委員
ここに分類されていないのですが、大学生にターゲットを絞って「知ってもらう」に限定するならば、動画を作るよりも大学の授業で紹介とか、がくまちネット（青葉区で実施する「学×まちネット」）などを利用した方が、有効かつ早いのかなと思います。地域について知ろうとするきっかけがないとやはり動かないと思ったので、学生に絞るのであれば、この

辺りが一番効果としては高い気がしますね。

〇大井副会長
短期的な効果が期待できそうですよね。

〇浅野委員
先ほど大学のボランティアセンターからメールが届いていて、原町の防災避難訓練への参加に申し込みを出したところなんですが、動画は好きなインフルエンサーじゃないとフォローしていないですし、おすすめで流れてきたところでしっかり見ないので、それよりかは、効果は期待できると思うんですよね。

〇及川委員
よっぽど繰り返し見て脳にインプットされれば、ということですよね。勝手に同じシーンが何回も流れてくると興味がなくても刷り込まれるような。

〇加賀委員
Spotify、インスタなどの広告を活用する方がいいかもしれませんね。

〇浅野委員
1人で知らない町内会に参加するのはやはりハードルが高いので、がくまちネットの学生さんにいろいろな情報を流して、そこから団体のメンバーに広めていく方が効果的ですし今後の活動にもつながるかなと思いますね。

〇及川委員
今のお話は、①の情報発信というよりは②の参加してもらう方の施策ですかね。

〇佐藤委員
今日はこういった形で短期、中期、長期の施策を出していくようにしますか。

〇大井副会長
短期、中期、長期、全部を埋める必要はないのかもしれないですね。

〇及川委員
学生の方々は、仙台市のポータルサイトや公式LINEを登録しているものですか。

〇浅野委員
僕の場合、公式LINEに登録しても情報が多いとブロックしちゃいます。お店のLINEですと

か。

〇及川委員
むやみやたらに流すのも問題ですよね。埋もれやすくなりますしね。

〇佐藤委員
同じ内容は 1 回までなどの取り決めは必要ですよね。

〇及川委員
このポータルサイトや LINE があることを知ってもらう必要もありますよね。

〇浅野委員
ポータルサイトに関しては、情報を取得できることと、申し込みもポータル上でできるのであれば、頻繁に見るかなと思いますね。情報を取得して、結局申し込みはメールでとなると難しいですね。

〇佐藤委員
LINE から活動一覧のようなリンク先に飛んで、そこで申請ボタンまで押せたらどうですか。

〇清野委員
最近、仙台市の女性活躍の促進関連で事業見学の広告がインスタでたくさん流れてきていて、私も最初はリンク先に飛んで見たりしてたので、そういう形で知る流れはあるのかなと思いました。

〇及川委員
繰り返し流れてくると見ちゃいますよね。

〇清野委員
仙台市単位で考えると情報がたくさん届いてしまうと思いますが、町内会の公式 LINE であれば運営側も受け取る側も、頻繁に情報が必要なわけではないので、LINE は良いと思います。

〇及川委員
町内会で公式 LINE を作りましょうということですね。

〇佐藤委員
仙台市が公式 LINE を作ってそれを町内会に渡す形ですかね。

〇浅野委員
町内会ごとということですか。

〇及川委員
町内会ごとなのか連合町内会ごとなのか。
単位町内会ごととなると運用できないところもありますよね。

〇佐藤委員
連合町内会がどの程度の規模か分からないのですが、区ごとでもいいかもしれないですね。

〇浅野委員
それはいいかもしれないです。僕も住んでるところから遠い泉区の情報が流れてきても行けないので、確かに区ごとの発信だといいですよね。

〇及川委員
青葉区の公式 LINE とかあるんですか。

〇青葉区まちづくり推進部
区での公式 LINE はないです。
青葉区まちづくり推進課はインスタを持っています。

〇清野委員
インスタは気軽にフォローしにくいですよね。

〇及川委員
フォローしているアカウントが分かっちゃいますもんね。

〇清野委員
そういった観点でも LINE の方が誰が何を登録してるか分からないので、恥ずかしさがないというのがあると思います。自分の興味があることが分かられないといいますか。だからこそ、私は広告の方が情報が得やすいですね。

〇佐藤委員
貴重な意見ですね。それと若者ですとフォロワーとフォロー数の差も気にしますよね。フォロー数の方が多くなっている人を見ると抵抗感があるといいますか。なので若者がフォローすることはかなり貴重なんですよね。

〇浅野委員
本当にそうだと思います。

〇佐藤委員
LINE なら秘匿性も高いので大丈夫ということですよね。

〇清野委員
そうです。

〇大井副会長
LINE をうまく使う話で、盛り上がりましたね。

〇及川委員
個人的には LINE も次々に通知が来るので、あまり友達登録をしたいとは思いません。

〇清野委員
自分に関係のある情報が頻繁にではなく、届くことが大事ですね。

〇及川委員
住んでいる区と通っている学校の区が違うこともありますよね。

〇大井副会長
浅野委員が先ほどお話しされたのがまさにそうですよね。自分の住んでいる区の情報というより大学の近くの情報の方が良いと。

〇浅野委員
そうです。友達が行くなら行くくらいの感覚なので。

〇及川委員
みんなが集まりやすい場所の情報ということですね。

〇大井副会長
大学周辺の面白い情報とかが欲しいということですよね。

〇及川委員
派生して自分の住んでいる地域での情報を取得する気になるかもしれないですね。

〇浅野委員
大学周辺の町内会よりも、もう一歩外れた町内会の方が人手を求めてるイメージがあるのですが。

〇佐藤委員
どこの町内会も人手不足の課題は抱えていると思いますね。
例えば今回は最初の検証の形で、青葉区で実施して、徐々に他区に広げていくのも良さそうです。
イベントの情報として大学生が何を知りたいか、ということもありますかね。

〇及川委員
学生が興味を持てる情報ですよね。

〇加賀委員
どんな屋台があるのかな、とか。

〇及川委員
映えるスイーツあります、とか。
それは出展者次第で違ってきてしまいますね。

〇清野委員
そういうイベントなどを実施していない地域が困りますよね。

〇及川委員
実施していたとしても若者が行って楽しめるような内容なのか、情報が届いていないということだと思います。

〇大井副会長
今自分の住んでる地域や通っている大学の地域での活動を知ることで、将来どこかのタイミングで関わるかもしれないというような、潜在意識を刷り込むことはできますかね。

〇浅野委員
学生だと仙台に残らないからこそ興味がない部分はあると思います。大学のために通っている地域でしかなくて、将来関係のある地域だと思えるかは疑問ですね。僕は仙台に残るのでまた違いますが、他の学生は、地域のためとか地域とのつながりを考えるでしょうか。

〇大井副会長
みんなに響くのかな、というのが気になるとこですよね。

〇及川委員
地域での楽しい経験があると、他の地域に行ったときにその地域のイベントなどに興味をもってもらえる気がします。

〇佐藤委員
A グループと同じようにふるさと愛、地域愛のような話になりますね。

〇浅野委員
情報が届くにしても当日だけただ参加するというのは、そんなに得られるものが無いのかなと思うので、企画段階から参加できるのがいいのかなとは思います。

〇及川委員
私は出身がとても小さな町だったので、お祭りとなると自分たちも半強制的に神輿を担いだりダンスのコンテストに参加したりしていたのですが、仙台に来てすずめ踊りなど、ちゃんと団体に入っていないと参加できないという仕組みだったため、見に行くだけなら行かなくてもいいかなとなってしまいます。参加するには、団体を探して入るところからなのでハードルが高いですね。社会人になると入社する企業によっては強制的に参加させられますけどね。

〇大井副会長
冒頭では「知ってもらう」だけでも、まずはいいんじゃないかという話があったんですが、今の話を聞いていると知ってもらうプラス体験のような情報がないとそもそもスルーされてしまうかなと感じますね。

〇浅野委員
こちらにメリットがないと行かないというのはありますよね。

〇及川委員
感覚からすると若い世代はイベントの内容よりも友達と集まれればいいんですよね。町内会や PTA の小さな祭りだろうが、卒業生たちで久々に集まるくらいの場があれば楽しいのであって。ただ、大人になったときに、自分の子どもたちにもやってあげたいと思えることも大事かとは思いますね。

〇大井副会長
そういった体験につながる情報に絞って発信した方がいい感じですかね。ただ知ってもらうよりかは参加してもらうことにつながる発信をした方がいいですね。

〇浅野委員
ポータルサイトに関しては、例えば参加なのか体験なのか運営なのかジャンル分けされてて興味がある項目にチェック欄を付けた情報が学生に届くと良いのかなと思います。

〇及川委員
子育て世帯も同じだと思いますね。例えばお菓子撒きや神輿担ぎなど、自分の子が参加できそうなものがあると、ただ見に連れて行くだけじゃなく、参加させてみようかと思うので。

〇佐藤委員
どうまとめていきましょうか。
第一段階としは、やはり知ってもらう施策を充足させて、まず 100 人に知ってもらい、将来 10 人に参加してもらうというイメージでしょうか。

〇及川委員
あえて年齢を絞らずに、知ってもらうところから参加する方に流れる仕組みにした方が面白いですかね。

〇佐藤委員
打ち手は、世代でターゲットを明確に決めた方が良いと思います。現実的な施策にもなっていますよね、大学の授業で伝えていくとか、あとはどういう内容を伝えていくのか・知ってもらうのか、なんですかね。先ほどの浅野委員の話を聞くと、１人だけで参加するものだと効果がないと思うので、２人以上で参加できる情報とかがよいでしょうか。

〇及川委員
地域の役員の方からの紹介ではなくて、実際には活躍してる若い方の話の方が、効果がありますよね。近い世代の人からの紹介というのが大事かと思います。発信自体も近い世代の人からの方がいいですよね。

〇浅野委員
活動の募集の際にも、本当に人手に困っている状況がリアルに伝わるといいですね。募集を見ても結局は誰かが参加してくれるだろうと思うこともありますし、行ったところで雑用ばかりだと本当に必要だったのか疑問に思うこともあるので、具体的にどのくらい、何のため

の人手が足りていないかの危機感が伝わるといいと思います。

〇及川委員
例えば、何人の募集に対して、現状として何人集まっていますというのが分かるといいということですよね。

〇浅野委員
そうです。クラウドファンディングのように、ゲージなどでパーセンテージでもいいのですが、進捗が分かるといいです。

〇及川委員
実現のハードルは高そうですが、実現したら活用しやすいですよね。

〇大井副会長
そういったものがポータルサイトでできればいいということですか。

〇及川委員
そうですね、人材版のクラウドファンディングのようなイメージですかね。
LINE に関しては、チェック項目があって自分が欲しい情報だけ受け取れるものだったらいいなと思います。

〇加賀委員
仙台市の公式 LINE は最初の設定でできましたね。

〇佐藤委員
残りの時間で課題の②の参加してもらう方に特化した話もしましょう。
参加してもらうための短期的な施策としては、スポット参加型の地域ボランティアや地域活動お試し期間、地域活動マッチングなどですか。
26 歳以上で町内会を知っているけど、参加していない人に対して何が必要になってきますかね。

〇及川委員
参加するメリットがあるかないかですよね。
子どもがいる家庭であれば、いろんなことを体験させてあげられるとか。

〇佐藤委員
子育て家庭ではそうですよね。家でただ過ごすよりも、体験をさせてあげられるというメリ

ットはあると思います。あとは、幅広い世代との関わりをもてるなどもそうですかね。この辺りをメリットとして掲げて、短期の地域ボランティアなどに参加してもらうということですね。

〇浅野委員
自分の時間を割いてでも参加するということですもんね。

〇佐藤委員
そこの参加のハードルを低くするには、どうすればいいか。

〇及川委員
そもそもの話になりますが、役員にも少し報酬があれば、時間に余裕がある方には関心をもってもらえるかもしれないと思います。時間を割いて参加するとなると、かなり高い関心がないと難しいかなと思います。

〇大井副会長
見せ方は大事かもしれないなと思いました。
私は仕事で、みんなでお花を植えましょうという事業のお手伝いをやらせていただいているんですが、自宅にお庭がなくて、こどもに花植えをさせてあげたい親子連れの方に来ていただくのが、地域清掃活動につながるところもあると思います。

〇佐藤委員
例えば「クリーン活動」というイベントの告知があっても、参加したことのない人は実際に何をするイベントなのか分からないから、そういったイベントを「こどもが土いじりできるイベント」のように発信方法の工夫はできるなと思いました。こどもや子育て家庭に参加してもらいたいのであれば、こどもの土いじり、虫発見、泥団子づくりとか。

〇及川委員
海岸の掃除であれば、拾ったものでワークショップができるとか。

〇佐藤委員
そういった内容が分かると参加したくなるかもしれないですね。

〇大井副会長
お子さんがいらっしゃる家庭だと、お子さんに体験してもらえるというメリットが想像しやすいんですが、まだ子育てを行う段階に至っていない人たちや単身世帯の方々へのアプローチには、また別の伝え方が必要なのかなと思います。

〇浅野委員
26 歳くらいの若手社会人の方って就職して忙しいですよね。参加のしやすさでいえば、子育てが終わった世代とかなんでしょうか。

〇佐藤委員
50 歳くらいの、ある程度子育てが落ち着いた人だと比較的参加がしやすい気がします。

〇大井副会長
今回は若者の参加という観点ではありますが、若い世代の方が時間のない中でもスポットなどで参加しやすい入口を作って参加いただき、つながりをつくることで、そこから地域に興味を持って子育て中はスポットで参加し、子育てが落ち着いたらしっかりと参加いただけるといいですよね。

〇佐藤委員
そういう意味でも、今回のターゲットに設定した世代にアプローチするのは間違ってないですね。今のお話から、今回の B グループは、いかに町内会との最初の接触を早められるかという部分が報告の軸になりそうですね。早く知ってもらって、26 歳以降の早いタイミングで参加してもらえたらうれしいですよね。早いうちに参加いただいて、地域活動が自分に合うか合わないかを見極めてもらいたいというのがテーマになってきそうですね。

〇大井副会長
人生の中で町内会や地域と接する頻度や経験をいち早く増やしていくか、ということですね。これまでの議論でも出ていたインセンティブの話で、例えば、初めて参加したときにインセンティブを与えるのか、河村委員から前回提案いただいたようにポイ活（ポイント活動）のような形で貯めていく方法もあるかと思いますが、いかがでしょう。

〇佐藤委員
飲食配送業などで初回の注文には、インセンティブを付けていることが多いですよね。1,000 円割引クーポンなどを配布して、まずはアプリをインストールしてもらうというやり方です。同じように、町内会でも知ってもらって実際に参加してもらうというインセンティブ設計は欲しいところです。仙台市でできるインセンティブはどういったものがあるんでしょうか。

〇及川委員
仙台市の指定ごみ袋は市民であれば誰でも使うし、無駄にならないし、いいと思います。

〇佐藤委員
ごみ袋はいいですよね。
できるだけ早く参加してもらうために、という軸で考えると、インセンティブ以外で何か思いつくものありますか。
先ほど「知ってもらう」施策で出た、仙台市の公式 LINE を利用して自分の参加したいイベントがすぐに見つかるとかでしょうか。

〇及川委員
申し込みまでがワンストップでできるようなものですね。

〇大井副会長
仙台市側で実施いただきたいという提案の目線もあるのですが、「地域活動ポータル+LINE」は重要になりそうですね。ポータルや LINE を作ることと、情報を集約するようなことでしょうか。

〇佐藤委員
②の施策でハードルが低く参加しやすいイベントを用意して、用意したものに対してアクセスする手段は①の施策で確保します、ということですかね。

〇大井副会長
26 歳以上の我々が、町内会の情報を①の施策で知ったという前提で、実際に参加するためにはどうすればいいか考えましょうか。

〇佐藤委員
何かと忙しいんですよね。その中でも参加したいと思えるかですよね。
やはりこどもにとってメリットがあるとか。

〇大井副会長
お子さんがいらっしゃる世帯ですとそうですよね。単身世帯などの場合はどうでしょう。

〇佐藤委員
例えば仙台市の指定ごみ袋がもらえるとか、そういったもので参加しようとなりますかね。

〇大井副会長
そうしたインセンティブだけではなく、コミュニティ的な要素が必要じゃないかなと思っています。

〇佐藤委員
誰かがいるから、とかですか。

〇大井副会長
そうだと思います。例えば若い世代で自主的に集まってごみ拾いのイベントなどをしていますよね。それはきっとごみ拾いを頑張ろうと思って参加するというより、そこに参加する人達と一緒に活動しようという感覚な気がします。

〇佐藤委員
僕の感覚もそうですね。おそらくここにいらっしゃる委員の皆さんは積極派ですよね。
そうじゃない人へのアプローチはどうしたらいいでしょうか。

〇及川委員
例えば本が好きな人にはブックトレード、料理が好きな人には料理教室のように、趣味のものであれば、単身世帯の人も忙しい中でも参加してみたいと思いますかね。そういう小さくてもコミュニティのようなつながりは欲しいですよね。同じ趣味の人たちで集まれる場のような。

〇大井副会長
正直、地域や他人との関わりを最低限にしたい人にリーチするのは難しいように感じます。リーチしても、結局継続的に参加してくれる人にはなりにくいと思いますし。

〇及川委員
今回の報告の対象にはしなくていいのかもしれないですね。

〇大井副会長
そして、そういう人は実は少ないと思うんですよね。社会人になると友達も簡単にできないじゃないですか。うっすらでも孤独感を感じている方は少なくないような気がします。

〇浅野委員
それこそ子育て世代の若い方々が入っていれば、自然とそういったコミュニティもできますよね。僕も参加させていただいている活動ですと、高齢の方が多い集まりでコミュニティ作りまではいかないので。

〇大井副会長
「うちの町内会は若い世代の人が集まっているコミュニティ」というイメージを作る意味でも、子育て世代にリーチするというのはいいですね。お子さんのいらっしゃる世代の方が町

内会に参加したら喜ばれそうな感じはありますけど、単身世帯の若い方が急に参加すると、不思議がられそうですよね。
子育て世代を中心に短期的なスポット参加のような施策を打ちながら、長期的なものとして、単身の方や学生にも、参加していただけるような報告だといいでしょうか。

〇及川委員
そうなると、スポットで募集してくれる方が町内会側に必要になりますよね。取りまとめの支援を行政にお願いできたとしても、現場で動く方が必要になってくるかなという。
おそらく今町内会でご活躍の方々にお願いしても、ハードルが高く、うまく対応するのは難しいのではないかという気もしますね。

〇浅野委員
テンプレートで必要最小限な情報を入れてもらうプラットフォームや紙があればハードルは下がると思うので、そういったテンプレート作りの部分を行政に支援してもらうのはどうでしょう。やはり作業が増えるとなると難しそうですかね。

〇及川委員
負担が増えるくらいなら、知っている人たちでやりましょうとなる気がします。

〇大井副会長
テンプレートで募集できたとして、当日の運営面でスポットのお手伝いをいただく際に、スポットで参加いただく人への対応なども含めて、町内会だけでは難しいということですか。

〇及川委員
この施策が軌道に乗って、募集することが当たり前になれば問題ないかもしれませんが。

〇大井副会長
全町内会で一斉に実施することは難しそうなので、1つの町内会に絞ってモデル的に実施するという形もありえるでしょうか。

〇佐藤委員
そうですね。どこかの町内会に絞ってモデル的に実践していただいて、その取組を事例として共有してもらいながら、他の町内会に広げていくような形の方が現実的ですか。
青葉区で実施している、がくまちネットでは実際にどの程度依頼があるんでしょうか。

〇青葉区まちづくり推進部
昨年度では町内会からのオーダー自体は30ほど来てますね。

ただマッチングをしていく中で実施されないケースもあるので、実績では 20 件程だと思います。

〇佐藤委員
思った以上にマッチングされてるんですね。

〇浅野委員
僕の団体では去年 4 町内会ほど行かせていただきました。

〇佐藤委員
そのときの運営はどのような感じだったのでしょうか。

〇浅野委員
僕たちはスマホ教室の開催だったのですが、青葉区まちづくり推進課の方で日程調整などをしていただいたので、僕たちの負担はなく、当日行って教室自体は任せていただいた形でした。

〇佐藤委員
一緒に取り組みましょうというよりは、依頼を受けるような形なんでしょうか。

〇青葉区まちづくり推進部
この事業自体は、町内会の活動やイベント運営自体の依頼があるというよりは、例えばこの時期だと敬老会でのコンテンツをお願いするとかが多いですかね。

〇大井副会長
イベントでお笑いとか落語のコンテンツを依頼するというイメージですよね。
ですので、先ほど話の出た、お手伝いしたくてスポットで参加する人に対して、町内会側から指示を出したり、お世話しなくてはならない状況とは違うんですよね。
そういったものは、いきなり町内会の人だけで対応することは難しいので、アドバイザー的な人がいた方がいいのではないかという話ですよね。

〇佐藤委員
モデル町内会を 1 つか 2 つ作って、その部分を行政の方に支援していただくということになりますか。

〇及川委員
アドバイザー自体は誰かに頼むとしても、間に入っていただけたらと思いますね。

〇大井副会長
そうですね。今日は間もなく時間となるので、報告までスライドの作成などのスケジュールを決めていきましょう。

〇地域政策課
報告に当たっての確認ですが、今回、我々から最初にテーマを提案させていただき、施策検討のお願いをさせていただきました。それを受けて、委員の皆さんで考えた施策案を報告いただくのですが、「こんな町内会だったらいいな」という理想があって、そのために、まずは本日議論いただいた 18 歳から 25 歳のターゲット層に向けての施策を実施して、次のステップとして、26 歳以上の層に向けての施策を実施することで、目指している理想の形につながるのではないかという流れを想定してお話しいただいているものと受け止めています。

〇及川委員
こういうことを行政にお願いしたいという報告でいいのでしょうか。

〇地域政策課
市の施策として、こんなことはどうですかという提案ですよね。若い世代として、こういう施策を実施すれば、自分たちの地域に、より理想に近い町内会ができて、町内会の活動の情報を得やすくなるし参加しやすくなる、といった報告でいいと思います。

〇佐藤委員
スライドの作成班と発表者の中でも調整の期間を取りましょう。

（B グループ：グループワーク終了）

〇村上事業推進担当係長
時間となりましたのでグループワークを終了いたします。
最後に齊藤会長より総括をお願いいたします。

〇齊藤会長
皆様お疲れ様でした。
あと 1 ヶ月で報告となりますが、なかなか終わりませんね。頑張りましょう。
A グループの中野委員から今日の感想をいただければと思います。よろしくお願いします。

〇中野委員
社会人向けの施策と学生向けの施策で考えていまして、社会人向けのパスポートを作ろうと

いう話と、学生向けには杜のタネプロジェクトという名前で若者の担い手になってもらうようなプロジェクトを実施しようという話になっていたので、当日 B グループの皆さんにもお伝えできたらと思っております。以上です。

〇齊藤会長
ありがとうございます。せっかくなので B グループからも感想をいただけますか。

〇浅野委員
はい。僕たちは町内会と関わる接点を早くしようということで 18 歳から 25 歳ぐらいの学生と 26 歳以降の社会人の 2 つをターゲットに絞り込みまして、それからこれまでの議論で自分たちが考えた施策案の効果を短期、長期に分類して、考えてたというところです。報告は A グループの皆さんにも刺さるようなものにしようと思ってますので、ぜひ楽しみにしていてください。

〇齊藤会長
ありがとうございます。皆様体調だけに気をつけて当日また集まりましょう。事務局にお戻しいたします。

5　閉　会

〇村上事業推進担当係長
皆様、長時間にわたりご議論をいただきましてありがとうございました。次回の第 5 回会議は、10 月 13 日（火）16 時より、場所は仙台市市役所本庁舎 3 階 第一応接室で開催いたしますので、よろしくお願いいたします。
以上をもちまして、第 4 回仙台若者会議「せんだいユースカウンシル」を閉会させていただきます。皆様、大変お疲れ様でした。

以上